

# 北齋大研究 レジюме

西暦	年齢	画号	出来事	備考
1760	1	時太郎	江戸に生まれ。（姓）川村。のちに鉄蔵。	1767: 田沼意次が御用人となり「田沼時代」スタート
			養子⇒実子に家督譲る⇒貸本屋の丁稚⇒彫師弟子入⇒実家に戻る…絵師を志す。	
1778	19		勝川春章入門	
1779	20	春朗	役者絵でデビュー	この頃結婚。
1787	28		「大判浮絵元祖東都歌舞伎大芝居図」をこの頃発表	1787: 松平定信「寛政の改革」
1789	30		浮絵、美人画、武者絵など手がける →勝川春好からパワハラ	1790: 出版取締令 発令 1791: 山東京伝 手鎖の刑、蔦重財産半分没収
1792	33		師匠・勝川春章 没	喜多川歌麿、美人大首絵で人気を博す
			狩野融川、3代目堤等琳（芸術品より実用品）などについて学ぶ	
1794	35		勝川家破門	写楽デビュー

西暦	年齢	画号	出来事	備考
1795	36	俵屋宗理	2 or 3代目俵屋宗理を襲名。 美人画、狂歌絵に注力→「宗理美人」を完成。 →脱・勝川式	円山応挙没 最初の妻没
1797	38	北斎宗理	北斎が崇高した「北辰妙見菩薩」という、北極星を神格化した菩薩にちなんで「北斎」と名乗る。	1797: 蔦重没 / 1800: 伊藤若冲没 二度目の結婚
1798	39	北斎辰政	俵屋独立→錦絵版画や草双紙復活。 長崎屋に逗留中のカピタンから絵巻の受注依頼	
1804	45	画狂人 北斎	江戸音羽・護国寺で120畳もの大達磨半身像を描く →パフォーマーとして活躍 (米粒に雀二匹。家齊の竜田川など)	歌麿筆禍
1805	46	葛飾北斎	読本に注力 (草双紙が幕府の統制が厳しかった為)	
1806	47		小説家・曲亭馬琴 宅に寄宿→ゴールデンコンビ 他にも、「柳亭種彦」、「十辺舎一九」と組み、 一世を風靡。  美人画の変化⇒色気が加わる	歌麿没

西暦	年齢	画号	出来事	備考
1811	52	戴斗	曲亭馬琴と絶交? <喧嘩説><繁忙説>	
1812	53		名古屋へ旅行。「北斎漫画」の下絵を描く。 北斎は関西旅行に行く途中、門人で尾張藩士の「牧墨僊」宅がある名古屋に半年間逗留し、約300カットの絵を描く。この名古屋で描いた約300カットの絵が、名古屋の版元「永楽屋東四郎」の目に留まり、1814年「北斎漫画 初編」が刊行。	<ul style="list-style-type: none"> <li>絵手本は、20種類以上を出版。（未刊は50種以上）略画早押指南、踊独稽古、一筆画譜など。</li> <li>勝川春好没</li> </ul>
1815	56			鳥居清長没(先輩世代没)
1817	58		名古屋西掛所（西本願寺別院）境内で120畳大の達磨半身像を描く	月下竹虎図
1818	59		鳥瞰図_総房海陸勝景奇覧 鳥瞰図_東海道名所一覧	
1819	60		鳥瞰図_木曾路名所一覧	
1820	61	為一		1827: 歌川国芳が武者絵で人気を得る 1828: 酒井抱一 没
1823	64			シーボルト着任
1826	67		シーボルトから依頼を受ける	
1827	68		脳卒中→自家製の薬で回復(ゆずを日本酒で割った薬?)	1828: 後妻没。60代は家庭が荒れる。 四女→没、長女離婚、三女応為離婚 孫放蕩

西暦	年齢	画号	出来事	備考
1831	72		「富嶽三十六景」が一世を風靡。 「百物語」	
1833	74		「千絵の海」10図 「諸国瀧廻り」8図 「諸国名橋奇覧」11図を発表⇒売り絵引退	歌川広重「東海道五十三次」刊行始まる
1834	75	画狂老人 卍	「富嶽百景」初編 ⇒為一時代の肉筆画は少数精鋭	
1836	77		鳳凰図屏風	
1839	80		火災に遭う。多数の作品を焼失。	
1839			貴人と官女図、西瓜図	
1840	81		鳥瞰図_唐土名所の絵	1841: 水野忠邦の天保の改革
1842	83		日新除魔図	

西暦	年齢	画号	出来事	備考
1842	83		小布施① 高井鴻山 (37歳) 邸を訪ねる	
1843	84		雪中張飛	
1844	85		小布施②→祭屋台の天井画: 龍と鳳凰 鍾馗騎獅図	弘法大師修法図 (1844-48)
1846	86		小布施③→祭屋台の天井画: 男浪と女浪 この頃、大阪で北斎の贋作 (俗に大阪北斎、犬北斎) が横行する。 再びこの頃に脳卒中?	
1847	87		赤壁の曹操図 雷神図 流水に鴨図	
1848	89		小布施④→岩松院の天井画 八方睨み大鳳凰図	
1849	90		李白観瀑図 雨中の虎図 / 雲龍図 雪中猛虎 富士越龍図  4/18、浅草聖天町遍照院境内の自宅で没 「あと10年、あと5年、本当の絵師に…」	

# リソース表

西暦	年齢	画号	肉筆画	浮世絵版画	狂歌	草双紙	読本	他
1779	20	春朗	△	○	△	○		絵暦、芝居絵本など
1795	36	宗理	◎宗理美人	×	◎第一人者	×		絵暦、俳諧の摺物など
1798	39	北斎辰政	◎さらに増	○復活!!	◎さらに増	○復活!!		
1805	46	葛飾北斎	○落ち着く	○落ち着く	△	△	◎	
1811	52	戴斗	△量より質	△量より質				◎絵手本
1820	60	為一前期	△少数ハイレベル		◎宗理時代に次ぐ多作			
1830	70	為一後期	△少数ハイレベル	◎風景画を中心に多作				
1834	75	画狂老人記	◎最多作期					絵手本は継続 ⇒版元の影響が少なかった学術的な内容な為

※1 人物相関図

## 先人

**勝川春章(1726 or 1743-1793) 歌川豊春(1735-1814) 円山応挙(1733-1795) 伊藤若冲(1716-1800)**

## 先輩

**鳥居清長(1752-1815) 喜多川歌麿(1753-1806) 勝川春好(1743-1812) 蔦屋重三郎(1750-1797)**

## 同年代

**葛飾北斎(1760-1849) 酒井抱一(1761-1829) 谷文晁(1763-1841)**

## 後輩

**歌川広重(1798-1858) 歌川国芳(1798-1861)**